

トラック輸送情報（平成15年 8月分）

平成15年10月30日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

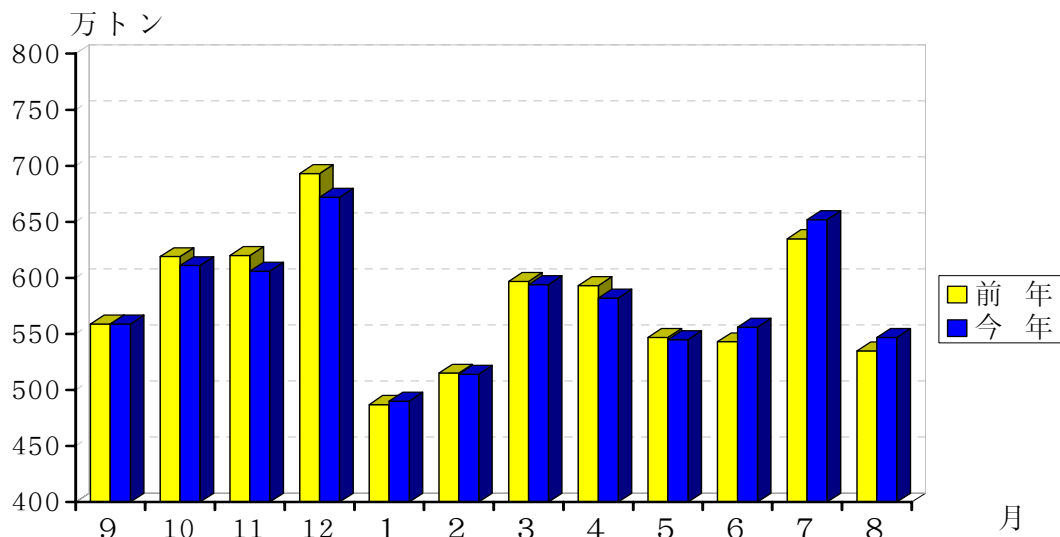
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

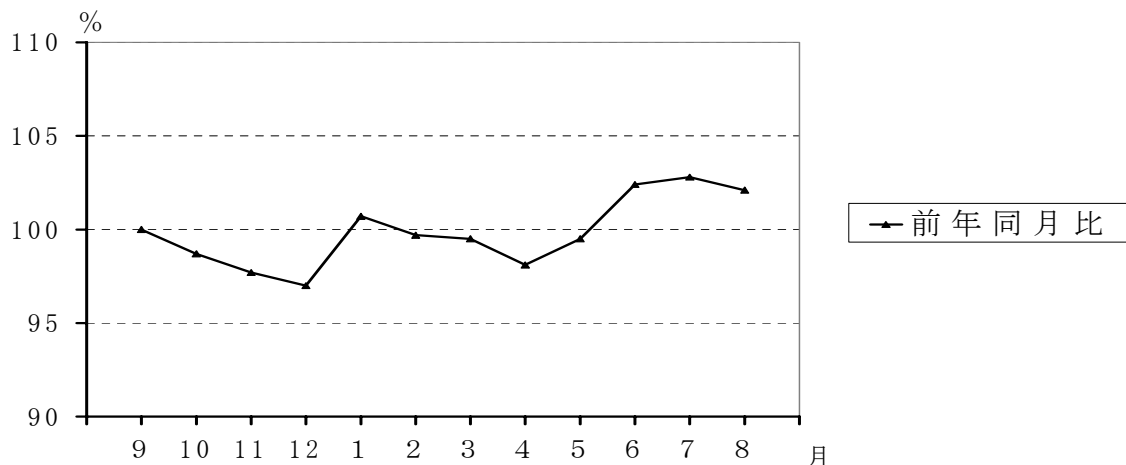
調査対象26社の本月の輸送量は5,469,236トンで、前月と比べ、総輸送量が約105万トン減少したため、前月比 83.9%（季節調整済み 98.7%）、前年同月と比べると、約11万トン増加したため、前年同月比102.1%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、22.8日で、前月と比べ、2.8日の減少、前年同月と比べると、0.4日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、239,879トンで、前月と比べ、約1.5万トン減少したため、前月比 94.2%、前年同月と比べると、約0.9万トン増加したため、前年同月比103.9%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



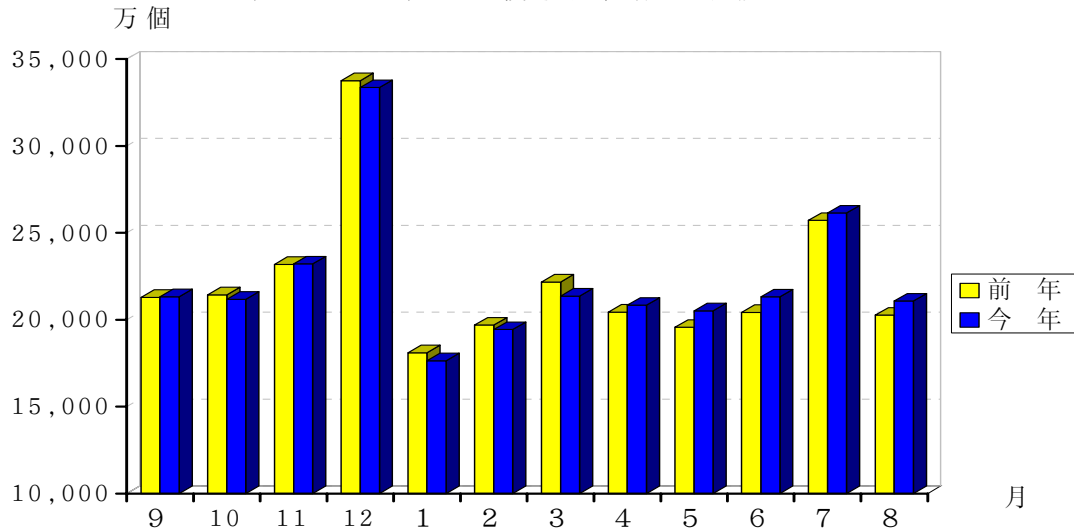
（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



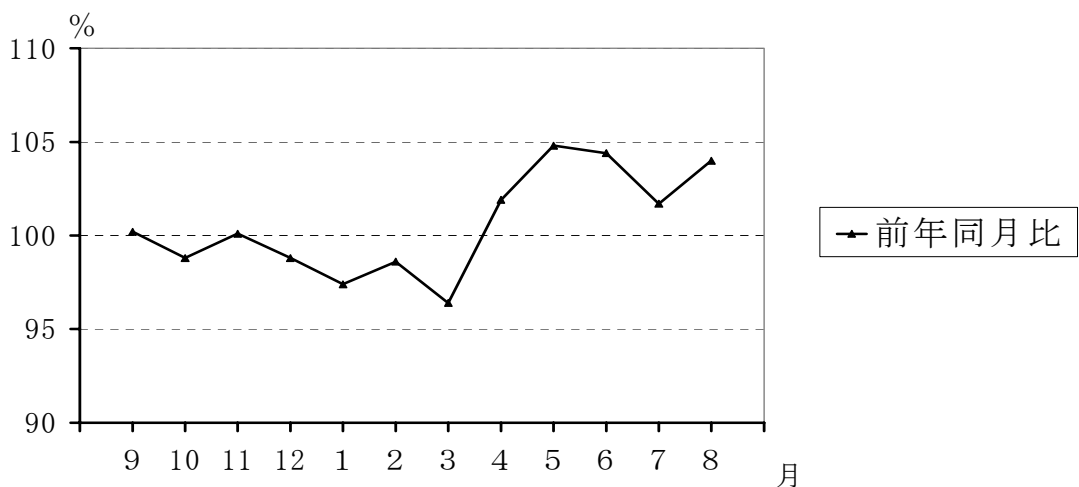
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、210,699千個で、前月と比べ、約5076万個減少したため、前月比80.6%(季節調整済み 97.6%)、前年同月と比べると、約802万個増加したため、前年同月比104.0%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、夏期休暇の影響を受け、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、その他が全国において、デパート、スーパーからの貨物減、季節的需要減を主な理由として、日用品が全国において、工場・生産地、倉庫から出る貨物減、季節的需要減を主な理由として、それぞれ減少している。

前年同月と比べると、繊維工業品が東北、関東、北陸信越において、工場・生産地からの貨物増を主な理由として増加しているが、減少傾向を示す品目も多く、中でも、化学工業品が関東、近畿、中国において、工場・生産地、倉庫から出る貨物減、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品			12	4	1	野菜、青果物	東北、関東、北陸信越	4, 8, 10
	金属製品			13	5	2	建築用金属製品、電気製品、工具	関東、北陸信越、中部、近畿	4, 7, 8, 9
	機械			9	9	2	産業機械、機械部品、家電製品	関東、北陸信越、中部、近畿	4, 7, 8, 9
	化学工業品			11	9	2	塗料、肥料、化学薬品、合成樹脂	関東、近畿、中国	4, 7, 8, 9
	繊維工業品		2	13	7	1	織物	東北、関東、北陸信越	4, 8, 9
	食料工業品		1	9	9	2	加工食品	東北、関東、北陸信越	
							飲料、製造食品	関東、北陸信越	2, 4, 7, 8
	日用品			6	12	3	一般貨物、身廻品、日用雑貨	全国	4, 7, 8
	その他		1	8	6	5	宅配貨物、百貨店配送品	東北、北陸信越	10
								全国	2, 8
前年同月に比べて	農水産品			12	5		農産物、野菜、青果物、水産物	東北、関東、北陸信越	4, 8, 10
	金属製品			14	6		建築用金属製品、電気製品	近畿	4, 9
	機械		1	11	8		産業機械、機械部品、家電製品	関東、北陸信越、近畿	4, 7, 9
	化学工業品		1	11	10		塗料、化学薬品、合成樹脂	関東、近畿、中国	4, 7, 9
	繊維工業品	1	1	15	6		織物	東北、関東、北陸信越	4
							その他の食料工業品	関東、九州	4, 7
			2	12	7		飲料	関東	2, 5, 7, 8, 9
	日用品		3	8	10		一般貨物、日用雑貨	関東、近畿	1, 4, 5
	その他		5	8	7		宅配貨物	全国	4, 5, 7, 9
								関東	2, 7, 10
							全国	4, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 865社 / 調査対象事業者数 1,092社）の輸送量は、前年同月比101.3%、前月比 95.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.3%	105.8%	100.5%	94.7%	104.6%	99.7%	96.2%	100.3%	99.1%	101.5%	106.5%
前月比	95.0%	100.2%	95.1%	85.7%	94.8%	92.8%	91.2%	96.3%	91.9%	97.2%	90.8%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、農繁期により農業関係品目（農作物、肥料等）、季節的な日用品の輸送がそれぞれ増加したが、お盆休みのため、稼働日数が減少し、また、天候不順の影響もあって、対前月比100.2%、対前年同月比は105.8%であった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月は横ばいであるが、以降は緩やかな増加があると思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、お盆休みの影響により、稼働日数の減少、冷夏により「食料工業品（清涼飲料水）」「日用品」等の季節的商品の需要減があったため、対前月比は95.1%と減少した。対前年同月比は100.5%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに平月並みの輸送量を見込める事等により、上昇傾向にあると思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、お盆休みの稼働日数減少により、輸送トン数が減少した。品目では、収穫期である「野菜・果物」「その他の農産品」が、冷夏の影響もあり、前月よりも輸送量が減少した。このため、対前月比は85.7%、対前年同月比も94.7%となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にあり、厳しい状況が続くものと思われる。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、お盆前後に工事関係の需要があったため、「その他の窯業品」「金属製品」の輸送量が増加し、「機械（自動車部品、工作機械）」の出荷も増加したが、全体的には夏期休暇により、輸送量が減少しており、対前月比は94.8%となった。また、対前年同月比は104.6%と増加している。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、夏休みの稼働日数減により、輸送量の減少が見られた。また、冷夏のため、「機械（エアコン）」の需要が見込めなかった。また、一部地域では、「食料工業品（茶）」の輸送が減少し、このため、対前月比は92.8%、対前年同月比は99.7%とほぼ横ばいとなった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降はやや増加傾向であると思われる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、荷主が夏期休業の期間、荷動きが少なかった事もあり、輸送量は減少している。品目別で見ても、「鉄鋼」「非鉄金属」「機械」の減少が目立っている。そのため、対前月比91.2%、対前年同月比96.2%とそれぞれ減少した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共にほぼ横ばいで推移するものと思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、お中元シーズン後半による「日用品」の輸送増もあったが、全体的にはお盆による荷主の休暇により輸送量が減少している。また、長雨や冷夏により「食料工業品（清涼飲料水等）」をはじめとした夏季特有の品目が予想よりも需要が少なかった事もあり、対前月比は96.3%となった。また、対前年同月比は100.3%と横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横ばい傾向である。</p>
四国	<p>本月の輸送は、季節的需要により、「その他の農産品」「その他の化学工業品」が増加したが、一方で「食料工業品」は冷夏によるアイス等の需要減、また、公共事業減少により、「鉄鋼」「その他の窯業品」、工場の盆休みにより「セメント」「紙・パルプ」が減少したため、対前月比 91.9%、対前年同月比 99.1%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に増加傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、お中元シーズンによる「食料工業品」「取り合わせ品」、公共工事の増加による「砂利・砂・石材」「機械」の輸送が増加した一方、冷夏の影響による「野菜・果物」の出荷量の減少、お盆休みの影響もあり、対前月比は97.2%、対前年同月比は101.5%となった。</p> <p>今後の輸送の見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向と思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、先月に続き、葉たばこの出荷、引越関係の運送需要の増加により、「その他の農産品」「取り合わせ品」の増加が見られたものの、学校が夏休みに入り、学校給食の配送の減少、さらに台風10号の影響で「野菜・果物」の輸送が減少したため、対前月比90.8%、対前年同月比106.5%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に上昇傾向にあると思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品 目		運 輸 局										
		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀 物	増	2	0	0	0	0	1	0	1	3	0	7
	減	0	2	0	0	0	1	1	0	3	0	7
2. 野 菜 ・ 果 物	増	3	3	2	2	0	0	0	1	1	0	12
	減	1	1	2	0	0	0	0	1	4	1	10
3. そ の 他 の 農 産 品	増	0	1	1	0	0	0	0	1	2	1	6
	減	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
4. 畜 産 品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	4
5. 水 産 品	増	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	4
6. 木 材	増	3	0	0	2	1	0	0	0	1	0	7
	減	3	1	0	0	1	0	0	0	2	0	7
7. 薪 炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石 炭	増	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
9. 金 属 鉱 物	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂 利 ・ 砂 ・ 石 材	増	7	1	0	0	1	0	4	0	4	0	17
	減	7	3	1	4	1	0	3	0	2	0	21
11. 工 業 用 非 金 属 鉱 物	増	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6
	減	2	0	0	0	1	0	2	0	2	0	7
12. 鉄 鋼	増	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	5
	減	3	1	1	0	0	3	1	3	2	0	14
13. 非 鉄 金 属	増	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	4
14. 金 属 製 品	増	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0	6
	減	0	0	2	0	1	1	2	1	4	0	11
15. 機 械	増	1	0	1	2	2	0	1	0	4	1	12
	減	0	1	3	0	5	3	1	0	3	0	16
16. セ メ ン ト	増	0	0	0	1	0	1	1	0	2	0	5
	減	4	3	0	1	1	0	1	1	2	0	13
17. そ の 他 の 窯 業 品	増	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
	減	2	3	0	1	0	1	0	1	0	0	8

品 目		運 輸 局										
		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
19. そ の 他 の 石 油 製 品	増	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	4	0	2	1	2	1	1	1	0	12
20. コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
21. 化 学 薬 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	1	1	1	1	1	0	0	2	0	7
22. 化 学 肥 料	増	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
23. そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3
	減	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
24. 紙 ・ パ ル プ	増	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	1	1	1	2	2	0	2	1	0	10
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
26. 食 料 工 業 品	増	2	3	2	0	0	1	0	1	5	1	15
	減	0	4	2	1	1	2	0	1	3	2	16
27. 日 用 品	増	4	0	0	0	1	1	2	0	2	0	10
	減	2	2	2	0	2	1	0	1	3	1	14
28. そ の 他 の 製 造 工 業 品	増	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4
	減	0	1	0	0	0	1	1	0	2	0	5
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. そ の 他 の く ず も の	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
	減	2	2	1	0	0	0	0	1	1	0	7
32. 廃 棄 物	増	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	減	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	6
33. 輸 送 用 容 器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取 り 合 せ 品	増	0	1	0	1	0	0	1	1	4	3	11
	減	0	1	0	0	0	2	1	0	2	2	8
35. そ の 他	増	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2